NEWS RELEASE

２０２４年７月１１日
岡山放送株式会社

ＯＨＫが「第５０回放送文化基金賞」を受賞
ろう団体との手話放送制作を通した長年の取り組みが評価

報道関係各位

岡山放送株式会社（本社：岡山市北区下石井二丁目10-12 、以下OHK）の情報アクセシビティ推進部が、公益財団法人放送文化基金が主催する「第50回放送文化基金賞」 放送文化部門を受賞しました。

今年50回目を迎えた放送文化基金賞は16作品と19の個人・団体が受賞し、7月9日、東京で贈呈式が行われました。OHK中静敬一郎社長と篠田情報アクセシビリティ推進部長が登壇し、手話を交えたスピーチで喜びの声を伝えました。OHKの受賞は初めてです。

受賞スピーチの様子（左：OHK中静社長
右：篠田情報アクセシビリティ推進部長）

受賞したOHKアクセシビリティ推進部と
ろう者のみなさん

OHKは「情報から誰一人取り残されない社会」を目指し、30年前から地域のろう団体と“OHK手話放送委員会”を立ち上げ、テレビ独自の手話表現を考案するなど、ろう者とともに手話放送を制作しています。また、協力する企業名を表示する“手話協力”では、チャリティやボランティアに頼らない持続可能な手話放送を実現しています。近年ではスポーツ分野で日本初の“手話実況”を実施し、手話実況者を育成するアカデミーを設立するなど、さまざまなインクルーシブな取り組みを実践しています。

これらの取り組みが今、“岡山モデル”として手話放送普及のモデルケースとしてだけでなく、すべての人に向けての情報伝達手段へと発展していると高く評価されました。

ろう者と制作する手話放送

地域企業が手話放送を支援

地上波のスポーツ中継に手話実況

今回の贈呈式は手話通訳付きで行われました。OHKと番組作りを行うろう者は「50年の節目を迎えた賞の贈呈式に初めて参加した。手話通訳がついたおかげで理解することができた。聞こえる人も聞こえない人もが平等な社会を作るために取り組みを続けていってほしい」と共に受賞を喜びました。

OHKはこの栄えある賞を励みに、今後も地域社会における情報弱者の課題に向き合い、当事者とともに取り組みを推進するとともに、「情報から誰一人取り残されない社会」の実現を目指し、より一層情報アクセシビリティ活動を推進していきます。

【本件に関する問合せ】岡山放送株式会社 企業広報担当 原田
TEL ０８６-９４１-８８８１